

253798

**STIC-ILL**

From: Marx, Irene  
Sent: Monday, June 14, 1999 1:46 PM  
To: STIC-ILL  
Subject: 09/083198

Please send to Irene Marx, Art Unit 1651; CM1, 10E05, 308-2922

Metabolic inhibitors, elicitors, and precursors as tools for probing yield limitation in taxane production by *Taxus chinensis* cell cultures

AU Srinivasan, V.; Ciddi, V.; \*\*\*Bringi, V.\*\*\*; Shuler, M. L.  
CS School of Chemical Engineering, Cornell University, Ithaca, NY, 14853, USA  
SO Biotechnol. Prog. (1996), 12(4), 457-465

Large scale production of secondary metabolites using plant cell cultures:  
Opportunities, realities and challenges.

AU Venkat, K.; \*\*\*Bringi, V.\*\*\*; Kadkade, P.; Prince, C.  
CS Phyton Inc., Ithaca, NY 14850 USA  
SO Abstracts of Papers American Chemical Society, (1997) Vol. 213, No. 1-3, pp. AGFD 54.  
Meeting Info.: 213th National Meeting of the American Chemical Society San Francisco, California, USA April 13-17, 1997

I Large scale production of secondary metabolites using plant cell cultures:  
Opportunities, realities and challenges

AU Venkat, K.; \*\*\*Bringi, V.\*\*\*; Kadkade, P.; Prince, C.  
CS Phyton, Inc., Ithaca, NY, 14850, USA  
SO Book of Abstracts, 213th ACS National Meeting, San Francisco, April 13-17 (1997), AGFD-054 Publisher: American Chemical Society, Washington, D. C.

Production of \*\*\*taxol\*\*\* by cell culture of *Taxus*: For development of techniques for industrial production

AU Hara, Yasuhiro; Yukimune, Yukihito  
CS Mitsui Petrochem. Ind., Ltd., Yamaguchi, 740, Japan  
SO Farumashia (1996), 32(7), 806-809  
CODEN: FARUAW; ISSN: 0014-8601  
DT Journal; General Review  
LA Japanese

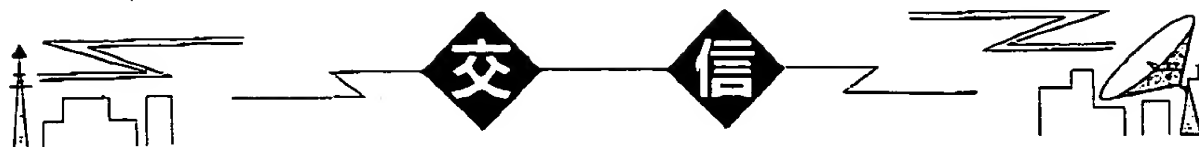
TI Effect of picloram and methyl \*\*\*jasmonate\*\*\* on growth and \*\*\*taxane\*\*\* accumulation in callus culture of *Taxus X media* var. Hatfieldii.

AU Furmanowa, M.; Glowinski, K.; Syklovska-Baranek, K.  
SO Plant cell, tissue and organ culture, 1997. Vol. 49, No. 1. p. 75-79  
Publisher: Dordrecht, The Netherlands : Kluwer Academic Publishers.

TI Large-scale plant cell culture

AU Roberts, Susan C.; Shuler, Michael L.  
CS Sch. Chemical Eng., Cornell Univ., Ithaca, NY, 14853-5201, USA  
SO Curr. Opin. Biotechnol. (1997), 8(2), 154-159

6/16



## 地区通信



### 北海道医療大学薬学部

#### ※教授発令(8.4.1):

関 興一(放射薬品化学, 学内より)  
関川 彬(製剤学, 学内より)  
宮崎正三(臨床薬剤学, 学内より)

#### ※助教授発令(8.4.1):

青木 隆(生化学, 学内より)  
石倉 稔(医薬化学, 学内より)  
大野孝正(病態生理学, 配置変)  
小田和明(薬化学, 学内より)  
齊藤浩司(薬剤学, 北大より)

#### ※講師発令(8.4.1):

遠藤哲也(中毒代謝学, 学内より)  
遠藤 泰(薬理学, 学内より)  
大倉一枝(放射薬品化学, 学内より)  
豊田栄子(薬品物理化学, 学内より)  
吉村昭毅(薬品分析化学, 学内より)

#### ※薬学部長発令(8.4.1):

羽賀正信(衛生化学, 再任)

#### ※部長発令(8.4.1):

教務部長 阪田正勝教授(中毒代謝学)  
学生部長 渡部博之教授(生化学)

#### ※改組について

文部省に申請中であった学部と大学院の改組が平成7年12月22日に認可された。これにより平成8年度より学部は総合薬学科(120名)となり大学院修士課程は、薬学専攻(16名)、医療薬学専攻(24名)の2専攻となった。

#### ※講座名変更

薬化学→医薬化学  
薬品製造化学→薬化学  
微生物薬品化学→免疫微生物学  
環境衛生化学→中毒代謝学  
毒理学→臨床薬理毒理学

#### ※教室新設

病態生理学, 臨床薬剤学

(縣 功)

### 新潟薬科大学

#### ※助教授発令(8.5.1):

波田野義比古(化学, 学内より)

(池城安正)

### 共立薬科大学

#### ※ワシントン大学と学術交流協定の締結(8.4.19)

共立薬大にワシントン大学薬学部長, Dr. Sid Nelson を迎え両校間での教育と研究分野における学術交流に関する協定の調印式が執り行われた。今後、教育と研究面での国際的な発展が期待される。特に大学院で臨床薬学を志す学生にとって、2年次にワシントン大学薬学部と付属病院で臨床研修の1ヶ月は貴重な学習になると思われる。

(小川芳子)

### 星薬科大学

#### ※学位授与(8.3.16):

大原長夫君「薬物の皮膚透過に及ぼす吸収促進剤と温度の影響」

小枝 守「生薬北升麻の2種のビスデスモンド、及び市販升麻の cimicifugosides H-1~H-6 の構造」

宮坂一善「Effect of Candidate Tumor Suppressor Gene Termed p16/CDKN2 in Mouse Hepatocarcinogenesis」

山根深一「ヨウ化サマリウムを用いる位置選択的炭素-炭素結合開裂反応の開発と応用」

輪千浩史「血管平滑筋細胞における細胞増殖とエラスチン発現」

(野沢幸平)

### 東京理科大学薬学部

#### ※教授発令(8.4.26):

小野秀樹(薬理学, 東大医より)

#### ※講師発令(8.1.1):

青木一正(生化学, 学内より)

(8.3.2):

川井恵一(放射薬品化学, 学内より)

(8.4.1):

永田諭志(毒性学・微生物化学, 学内より)

多名誉教授発令(8.4.1):

近藤 保

滝谷昭司

多学位授与(7.11.30):

伊藤達也「新規ニューキノロン系合成抗菌剤の  
抗菌活性と作用機構に関する研究」井上 昂「Tyrosine を含む Biaryl Ether 結合  
の新規構築法の開発と応用」吉岡利満「油中水中非イオン性界面活性剤ベシ  
クル型エマルジョンに関する研究」

(8.3.20):

秋本和憲「チロシンキナーゼ共役型受容体によ  
り活性化される P 13-キナーゼと aPKCλ から  
なる新規細胞内シグナル伝達経路」王 殿升「抗癌胎児性抗原モノクローナル抗体  
を用いたヒト大腸癌の診断及び治療に関する  
基礎研究」周 緑璇「真菌および植物由来三種蛋白質の二  
次元電気泳動とアミノ酸配列分析」下 武男「ラット甲状腺二段階発癌モデルにお  
ける甲状腺増殖性病変発生機構に関する研  
究」浜浦健司「セフボドキシムプロキセチルの製剤  
学的研究」

多退職(8.3.31):

福室憲治(薬物治療学, 東京女医大病薬剤部へ)

青木一正(生化学, 都臨床医総研へ)

川井恵一(放射薬品化学, 宮崎医大へ)

(8.4.30):

永田諭志(毒性学・微生物化学, 東大院農芸生命  
科学研究科へ)多杉浦義昭助手(毒性学・微生物化学)は, 米国  
Centers for Disease Control and Prevention  
(Atlanta)へ「ヒト病原真菌の感染機構の解明」  
に関する研究のため留学(8.4.1~9.3.31).

(宇留野強)

## 城西大学薬学部

多教授発令(8.4.1):

山本勝美(学内より)

ファルマシア

多助教授発令(8.4.1):

津田 整(学内より)

近藤誠一(学内より)

白幡 晶(学内より)

多講師発令(8.4.1):

片山 定(学内より)

夏目秀視(学内より)

多学位授与(8.3.22):

別府隆信「細胞増殖におけるスベルミジンの役  
割に関する研究」金 一「油性基剤を用いたジドブジンの経皮  
吸収型製剤の設計に関する研究」

(尾崎 裕)

## 金沢大学薬学部

多教授発令(8.4.1):

鈴木永雄(薬学研究科医療薬学, 学内より)

宮本謙一(薬学研究科医療薬学, 北陸大薬より)

多助教授発令(8.3.1):

玉井郁巳(製剤学, 学内より)

(8.4.1):

清水 栄(薬学研究科医療薬学, 学内より)

横川弘一(薬学研究科医療薬学, 附属病院薬剤  
部より)

多配置換(8.4.1):

関崎正夫教授(活性相関物理化学, 教養部より)

大崎晃三助教授(活性相関物理化学, 教養部よ  
り)

北浦 孝助教授(分子細胞薬学, 教養部より)

多学位授与(8.3.25):

尾崎栄二郎「プラスミド pKYM 複製に必要な宿  
主タンパクの精製とその性質」鬼原かおる「塩基性線維芽細胞増殖因子の機能  
に関する研究」高長ひとみ「pH-Dependent and Carrier-  
Mediated Transport of Monocarboxylic  
Acid in Intestine: Functional Characteri-  
zation and cDNA Cloning of Proton-  
Coupled Monocarboxylic Acid Transpor-  
ter」橋本光正「細胞周期の進行阻害で誘発される 4  
倍体細胞は各種制がん剤に対する耐性細胞出  
現頻度を増強しゲノム不安定性を獲得する」

宮川基則「ベンズアルデヒドクロム錯体を活



孫 功)

池城安正)

吉(8.4.19)

Dr. Sid

野における  
われた。今  
期待される。  
て, 2 年次  
臨床研修の

(小川芳子)

す吸収促進

デスモシド,  
H-1~H-6umor Sup-  
DKN 2 inる位置選択  
と応用」

細胞増殖と

(野沢幸平)

用する高立体選択的アルドール反応：生物活性化合物合成への応用」

若杉光生「ヒト細胞における紫外線誘発 DNA 損傷結合タンパクの分離とその解析」

高橋 文「C. P. ツェンベリとその日本医療への貢献」

津田良子「アミノ配糖体系抗生物質のろ紙採血法による定量法の開発とその応用に関する研究」

西村雅之「イオンクロマトグラフィーの高機能化の開発に関する基礎的研究」

松下 良「病態時における薬物体内動態変動因子の基礎的解析と臨床応用」

〆平成 8 年 4 月 1 日より従来の 13 小講座制から 6 大講座制へ組織変更された。

〆平成 8 年 4 月 1 日より大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程が新設された。

(向 智果)

#### 岐阜薬科大学

〆教授発令(8.4.1)：

佐藤孝彦(衛生化学，併任)

〆発令(8.4.1)：

学生部長 葛谷昌之教授(再任)

厚生薬学科長 永井博之教授(新任)

製造薬学科長 正木幸雄教授(再任)

図書館長 川島嘉明教授(再任)

〆名誉教授発令(8.4.1)：

鶴飼茂夫

〆学位授与(7.12.27)：

寺島幸二「抗潰瘍性ピリミジン誘導体の合成と構造活性相関に関する研究」

吉田 勲「抗腫瘍性カルボキシメチル化(1→3)- $\alpha$ -D-グルカンに関する研究」

田中里枝「 $\beta$ -ラクタム抗生物質のデザインと合成に関する研究」

(8.3.5)：

服部 明「腫瘍壊死因子の繊維芽細胞に対する神経成長因子産生促進作用に関する細胞生物学的研究」

山本明子「アレルギー性気道収縮についての薬理学的研究」

竹越裕二「熱分解ガスクロマトグラフィーによる繊維類の鑑識化学的研究」

菅野 進「パラコート及びその関連化合物の還元成核体のガスクロマトグラフィー/質量分析に関する研究」

崔 福德「球形晶析法による塩酸アセプトロールの直接打錠用造粒結晶及び徐放性製剤化法の開発」

〆退職(8.3.31)：

鶴飼茂夫(衛生化学教授，定年)

〆宇佐美好子助手(薬剤学講座)は，米国シンシナティ大へ「医療薬剤師研修及び研究」のため留学(8.4.15～9.3.31)。

〆出屋敦喜宏助教授(生化学講座)は，米国ミシガン大(医学部)へ「血液凝固第IX因子遺伝子と血液凝固系の制御機構」に関する研究のため留学(8.5.10～9.5.9)。

(河野通明)

#### 大阪大学薬学部

〆助教授発令(8.4.1)：

村上啓寿(生薬学，京都薬大より)

〆学位授与(8.3.25)：

腰本裕之「嗅覚情報伝達経路の機能的配置に関する生理学的研究」

(8.3.29)：

小西廣己「テオフィリン代謝に関与するチトクロム P-450 分子種の特性とヒトの本代謝系に係わる薬物相互作用」

(8.5.9)：

山田昌樹「多官能性イソニトリル誘導体を用いるヘテロ環化合物の合成研究—新規 H<sup>+</sup>/K<sup>+</sup> ATPase 阻害剤の開発」

横川佳浩「糖質を素材とする生物活性擬似糖，擬似ヌクレオシドおよび免疫抑制活性物質 myriocin 類の合成研究」

〆退職(8.3.31)：

三村 務(微生物薬品化学教授，定年)

(八木清仁)

#### 大阪薬科大学

〆嘱託教授発令(8.4.1)：

松永春洋教授(医薬品化学)

田中千秋教授(第 1 放射薬品学)

保坂康弘教授(第 2 微生物学)

〆部長発令(8.4.1)：

物の還  
質量分トロー  
剤化法ンシナ  
ため留ミシガ  
子と血  
め留学

予通明)

置に関

チトク  
謝系にを用い  
H<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>類似糖、  
性物質

ト清仁)

就職部長 森 逸男教授(第2分析化学)  
図書館長 池田 潔教授(第1生化学)  
研究委員長 千熊正彦教授(第1分析化学)

※定年(8.3.31):

松永春洋(医薬品化学教授)  
田中千秋(第1放射薬品学教授)  
保坂康弘(第2微生物学教授)

※学位授与(8.3.9):

森野重信「蛋白質合成開始因子4 mRNA キ  
ャップ構造認識機構に関する研究」

※平成8年4月1日、高槻市に建設中の新校舎が  
完成し、全面移転を終え開校の運びとなった。  
(有本正生)

### 広島大学医学部総合薬学科

※教授発令(8.6.1):

藤村欣吾(薬効解析科学講座, 広島大原爆放射  
能医研より)  
高野幹久(医療薬剤学講座, 京大病院薬剤部よ  
り)

※学位授与(8.3.6):

木内義人「直腸粘膜刺激性評価法の開発」  
奈女良昭「重要漢薬の組織培養によるクローン  
増殖と有用二次代謝産物の生産に関する研究。  
ミシマサイコ、カギカズラ、リンドウ、サフ  
ラン、クチナシについて」

(8.3.26):

児玉頼光「大環状テトラアミン亜鉛錯体を用い  
たリン酸エステルの加水分解」  
山口雅史「好中球におけるリン酸化一脱リン酸  
化を介した活性酸素産生制御機構」  
湯浅勝敏「プレオマイシンにより誘導される大  
腸菌蛋白質の過剰発現」

佐藤栄治「促進老化モデルにおける脳グルコー  
ス代謝と酸化ストレスの早期変化」

Saeid Razee「キャピラリー電気泳動法を応用し  
た新規分離法の開発」

(仲田義啓)

### 徳島大学薬学部

※教授発令(8.4.1):

横田雅之(臨床薬理学, 川崎重工より)  
木原 勝(医薬品情報学, 学内より)

※助教授発令(8.4.1):

ファルマシア

山内あい子(医薬品情報学, 神戸学院大薬より)

※附属医薬資源教育センター長発令(8.4.10):

寺田 弘教授(生物薬品化学; 再任)

※学位授与(8.3.26):

市原準二「がん細胞の糖代謝におけるII型ヘキ  
ソキナーゼの役割と遺伝子発現」

近藤 渉「血管のNO産生系におけるシグナル  
伝達」

※退職(8.3.31):

山下卓哉(薬品物理化学教授, 定年)

※宇野公之助教授(製剤学)は、英国ヨーク大での  
「ヘモグロビン部位特異的変異体の調製と構造解  
析」に関する研究を終え帰国(8.2.29)。

※薬学部附属医薬資源教育研究センター棟が竣工  
した(4階建, 建築面積313m<sup>2</sup>, 延床面積  
1,344m<sup>2</sup>)。本センターは環境生物工学, 植物環  
境資源学及び海洋環境資源学の3分野から構成  
され, 新しい医薬資源探究の教育研究を行うこと  
を目的として平成4年度に発足した(8.3.29)。

※薬学研究科医療薬学専攻(博士課程, 7講座)が  
設置された(8.4.1)。

#### 基幹講座

臨床薬理学(横田雅之教授, 滝口祥令助教授)  
医薬品情報学(木原 勝教授, 山内あい子助  
教授)

#### 協力講座

臨床分子薬品学(長尾香光教授, 桑原 淳助  
教授)

生体機能学(守時英吾教授, 久山哲廣助教授)  
薬物動態学(際田弘志教授, 原島秀吉助教授)  
臨床薬剤学(高杉益充教授, 水口和生助教授)  
臨床病態学(斎 義博教授, 前田健一助教授)  
(田中秀治)



## 業界通信



※助会員各社の最近の動向をお知らせします。

#### エーザイ㈱

自社開発の注射用急性心不全治療剤「コアテッ  
ク注5mg」(一般名: 塩酸オルプリノン)を新発売  
(8.4.24)。

(1996)

## 住友製薬㈱

ジェネンテック社とのt-PA 特許紛争に和解が成立し、t-PA 事業から撤退。上告を取り下げることとした。

## 大日本製薬㈱

台東区に東京事業所を新築し、事業所名称を「谷中分室」から「東京事業所」へ改め、4月22日から業務開始。

## 武田薬品工業㈱

平成8年度は104名が入社(8.4.1)。

## 日本グラクソ㈱

グラクソ・ウエルカム・ピー・エル・シー(英国)の、5-HT<sub>1</sub>作動薬として知られる片頭痛治療薬スマトリプタン(一般名)が英国女王賞を受賞した(8.4.22)。

## 日本ロシュ㈱

エイズウイルス増殖の際に関与する逆転写酵素を阻害する薬剤としては国内で3番目となる、抗HIV薬「ハイビッド錠」(一般名:ザルシタピン)を新発売(8.4.26)。

## 藤沢薬品工業㈱

同社が創製し、糖尿病性末梢神経障害の治療を目的として開発中であるアルドース還元酵素阻害剤「ゼナレスタット(一般名), FK 366」を、米国ワーナーランバート社が全世界(日本及び一部地域を除く)で開発・販売するライセンス契約を締結した(8.4.12)。



## 掲 示 板



財団上原記念生命科学財団第3回  
特定研究助成金候補者募集要項

## 1. 助成対象の研究課題

「Common disease—遺伝子異常と発症機構」の成因の解明を目的とする。

1) Common disease(糖尿病, 肥満症, 高血圧

症及び高脂血症)の病因遺伝子の同定

2) 同, 発症機構の研究

2. 研究助成方法 3年間の継続助成とする。

単位万円

	8年度	9年度	10年度	計
A.採択約5件	500	500	500	1,500
B. // 約10件	300	300	300	900

3. 応募方法 所定の用紙に記入して、当財団へ送付する(申請用紙の請求は葉書にて)。

4. 応募の締切 8月9日

5. 選考方法 選考委員会で選考し、理事会・評議員会で決定する。

6. 採否の通知 平成9年1月中応募者宛通知。

7. 助成金の交付 平成9年1~3月間に贈呈。

連絡先: 〒171 豊島区高田3-25-3 財団上原記念生命科学財団 Tel(03)3985-3500, 8400

財団上原記念生命科学財団平成8年度研究助成及び海外留学助成等の候補者募集要項

## 1. 研究助成

1) 助成対象課題 生命科学, 特に健康の増進, 疾病の予防及び治療に関する諸分野の研究

(イ)栄養学, (ロ)薬学一般, (ハ)基礎及び臨床医学(東洋医学を含む), (ニ)社会医学(体力医学を含む)

2) 助成対象者 上記研究に意欲的に従事する日本在住の研究者で、大学の場合は学長(総合大学は学部長)の推薦を受けた者とし、当財団の理事会が承認した研究機関の場合は、その代表責任者の推薦を受けた者とする。

## 3) 助成の種類及び金額

(イ)研究奨励金(昭和34年4月1日以降出生の者, 6年制の学部卒業者は昭和32年4月1日以降出生の者) 1件 200万円, 助成件数70件

(ロ)研究助成金(年齢不問, 単独研究, 共同研究でも可) 1件 500万円, 助成件数50件

4) 助成金の使途 研究に要する物品の購入その他研究推進に必要な費用とする。

## 2. 海外留学助成(上原フェロシップ)

1) 助成対象者 研究助成と同じ課題の研究を行う研究者で次の条件を満たす者とする。

(イ)研究助成と同様に推薦者の推薦を受けた者

(ロ)博士号を有するか、またはそれと同等以上の  
研究業績を有する者

(ハ)原則として平成9年1月以降新たに海外留学  
に出立する者

(ニ)1年間以上の海外留学を受け入れる大学等学  
術機関が決定している者

## 2) 助成の種類及び金額

(イ)ポストドクトラル フェローシップ

昭和38年4月1日以降出生の者で、助成期  
間中無収入の者

1件 320万円以内、助成件数 約25件

(ロ)リサーチ フェローシップ

研究奨励金と同じ若手研究者

1件 320万円以内の必要額、助成件数 約  
35件

## 3. 応募方法(研究助成及び海外留学助成共通)

1) 応募方法 所定の用紙に記入して、当財団へ  
送付する(申請用紙の請求は葉書にて)。

2) 応募の締切 9月10日

3) 選考方法 選考委員会で選考し、理事会・評  
議員会で決定する。

4) 採否の通知 平成9年1月中応募者宛通知。

5) 助成金の交付 平成9年1～3月間に贈呈。

4. 国際シンポジウム開催に対する助成、申込締  
切9月10日

連絡先：〒171 豊島区高田3-25-3 勸上原記念  
生命科学財団 Tel(03)3985-3500, 8400

## 第6回(平成8年度)勸ホソカワ粉体工 学振興財団研究に関する助成・援助等候 補推薦要項

### 1. 研究助成

1) 対象 国公立大学、その他の教育・研究機  
関において粉体に関する基礎研究に従事してい  
る研究者または研究グループ。

2) 金額・期間 1件当り50～100万円 総額  
1,200万円、助成期間は1ケ年とする。

3) 助成金の使途 研究目的達成上やむを得ない  
場合には変更しても差しつかえない。また必ず  
しも受領年度内に使い切る必要はない。

4) 報告の義務 研究終了後3ヶ月以内に、研究  
成果報告及び会計報告を報告する(期間が1年を  
超える場合は1年目で中間報告をする)。当財団  
に報告後研究成果を専門誌等に印刷公表される

ことを望む。

### 2. 褒賞(KONA賞)

1) 対象 粉体工学に関する基礎研究に従事しつ  
つあり、かつ優れた研究業績を挙げた研究者(1  
名)または研究グループ(1グループ)。

2) 賞の内容 賞状及び副賞として100万円

3) その他 本件は所属機関の長の推薦によるこ  
ととし、自薦は認めない。推薦書受理後、財団  
より被推薦者に研究業績について資料とその説  
明書の提出を依頼する。

### 3. 国際交流に対する援助(海外渡航費援助)

1) 対象 粉体に関する基礎研究に従事している  
研究者が国外で開催される国際学会・シンポジ  
ウム等で自己の研究成果を発表する時、研究、  
勉学のため短期間(3ヶ月以内)外国に滞在する時  
の渡航費等。

2) 金額 原則として1件当り30万円、4件 総額  
120万円

3) 援助の対象となる出張の期間は、平成8年12  
月～平成9年11月の間であること。

### 4. 研究者育成のための助成

1) 対象 粉体工学に関する基礎研究に従事する  
研究者・大学院の学生等を対象とし、大学院生  
の場合、申請時において、修士課程または博士  
前期課程の1年次、及び同後期課程の1、2年  
次に在学する者。

2) 金額・期間 原則として1件当り20万円(年  
額)、5件 総額100万円、期間は1ケ年。

3) 制限 助成金の使用は①学会会費、②学会参  
加費、③研修会費、④書籍購入費に限る。

4) 報告の義務 財団は助成を受けた人に対し、1  
年経過後、助成による研究成果報告書及び領収  
書を添付した会計収支報告書を提出する。

### 5. 推薦者・推薦手続

1) 推薦者 関係学協会の代表者及び大学その他  
の教育・研究機関の長または部局の長とするが、  
研究者育成援助は直接の研究指導者とする。

2) 手続 所定の推薦書に、被推薦者本人の申請  
書(KONA賞を除く)と併せて送付する。

### 6. 推薦・申請締切 7月31日必着

### 7. 選考方法及び助成・援助金の贈呈

選考委員会(8～9月)で選考し、理事会(11月)  
で決定する。平成9年1月贈呈式を行う。

連絡先：〒573 枚方市招堤田近1-9 ホソカワミ

る。

単位万円

要 計

1,500

900

当財団へ

事会・評

宛通知。

贈呈。

上原記念

)

年度研

補者募

の増進、

研究

島床医学

医学を含

事する日

(総合大

財団の理

の代表賞

年出生の

年4月1

助成件数

共同研究

50件

購入その

研究を行

けた者

クロン(株)技術開発センター内(株)ホソカワ粉体工  
学振興財団事務局 Tel(0720)67-1686 Fax  
(0720)67-1658

### 財武田科学振興財団薬学系特別研究奨励金受領者

財武田科学振興財団より、薬学系特別研究奨励金受領者として、平成8年5月13日付けで連絡のあった薬学関係者は次の通り。

赤路健一(京都薬大)  
石塚忠男(熊本大・薬)  
岡野登志夫(神戸薬大)  
土井光暢(大阪薬大)  
二本史朗(徳島大・薬)

## 求人広告

### 教 官

大阪外国語大学開発・環境講座教官公募  
教授、助教授または講師、1名、条件①専攻分野生活環境科学、②大学院博士(後期)課程に所定の年限在学し、必要単位を修得した者、これに準ずる者、博士号を有する者、取得見込みの者、③満53歳以上61歳未満または、満30歳以上35歳未満(採用時)、採用平成9年4月1日(予定)応募期限9月30日(消印有効)、提出書類①履歴書、②研究業績目録、③主要業績5点以内(抜刷、コピーも可)、④健康診断書  
問合せ先：〒562 箕面市栗生間谷東8-1-1 大阪外国語大学長宛庶務課人事係 Tel(0727)30-5006

立命館大理工学部教員(教授または助教授)公募  
公募：1名、着任：1997年4月1日、専門分野：生物機能工学、担当講義等：生物反応工学、生物物理化学、生体機能工学、一般教養相当科目、資格：博士号、着任時50歳以下、応募：履歴書、研究業績目録、主論文別刷5編、これまでの研究の解説と今後の研究計画概要・教育への抱負(2千字程度)、応募締切：1996年8月20日必着、宛先・問合せ先：〒525 滋賀県草津市野路町1916立命館大学理工学部応用化学系学系長 中村尚武

Tel(0775)61-2779 Fax(0775)61-2659 「教員応募書類」と朱書きし、簡易書留郵便で送付。

通産省工業技術院研究職選考採用者の募集  
全国15の試験研究所では研究者を募集しています。

①募集人員：約30名②募集分野：化学、物理、電子、機械等広範な分野③応募資格：博士課程修了者または見込者(学位取得が可能な者)かつ昭和38年4月2日以降生まれの者④給与：251,300円の基本額と諸手当⑤提出書類：履歴書、研究業績等⑥公募締切7月31日⑦選考方法：提出書類等をもとに予備審査と最終審査を実施して10月上旬に決定⑧採用予定日：平成9年4月1日

連絡先：〒305 つくば市東1-1-4 筑波研究支援総合事務所研究企画調整官室 Fax(0298)55-3833

翻訳者(在宅)及びアドバイザー(在宅)募集

職務：基礎(薬理・毒性・ADME・物理化学、規格及び試験方法、安定性)及び臨床の翻訳、並びに薬事申請、非臨床・臨床開発のコンサルタント業務

資格：製薬会社等で開発部長・研究所長等の経験者歓迎 待遇：出来高制

応募：履歴書郵送(専門分野明記)応募秘密厳守

連絡先：〒152 目黒区鷹番2-20-12-403 (株)アイ・シー・オー 担当佐井 Tel(03)3712-2377  
大阪支店 〒541 大阪市中央区南本町2-4-16-501 担当西田 Tel(06)263-6347

ゼネカ薬品(株)臨床データ管理担当者募集

職種：臨床試験データの整合性、欠落の妥当性の確認及びデータベースの構築

資格：大卒(理系、薬系)以上、24～33歳までの臨床試験モニター、データ管理業務経験者、コンピュータ知識、英語力あれば尚可

勤務地：大阪本社(連絡先に同じ)

応募：履歴書・職務経歴書をお送りください。書類選考の上、詳細は追って連絡。秘密厳守

連絡先：〒531 大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル7F 26階 ゼネカ薬品(株)人事部採用教育グループF係 担当今西、谷島 Tel(06)453-7344



員応募

募集

います。

物理、

課程修

つ昭和

300円

研究業績

吾類等

月上旬

研究支援

5-3833

募集

学、規

訳、並

サルタ

等の経

秘密厳守

（開ア

1-2377-

1-4-16-

ミ

妥当性

までの

者、コ

い、寄

守

梅田スカ

教育グ

7344

(1996)

## ゼネカ薬品㈱マーケティングリサーチ担当者募集

職務：医薬品のマーケティングリサーチに関わる業務

資格：大卒(理系)以上、24～33歳までの医薬品業界でのマーケティングリサーチ経験者、要IMSデータ分析力

勤務地：大阪本社(連絡先に同じ)

応募：履歴書・職務経歴書をお送りください。書類選考の上、詳細は追って連絡。秘密厳守

連絡先：〒531 大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカビル7階 26階 ゼネカ薬品㈱人事部採用教育グループF係 担当今西、谷島 Tel(06)453-7344

## ゼネカ薬品㈱学術業務(メディカルインフォメーション)担当者募集

職務：学術業務(メディカルインフォメーション)

資格：大卒(理系)以上、28～35歳までの学術業務経験者、オンコロジー製品担当経験者尚可、教育研修経験者尚可、要英文読解力

勤務地：大阪本社(連絡先に同じ)

応募：履歴書・職務経歴書をお送りください。書類選考の上、詳細は追って連絡。秘密厳守

連絡先：〒531 大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカビル7階 26階 ゼネカ薬品㈱人事部採用教育グループF係 担当今西、谷島 Tel(06)453-7344

## ゼネカ薬品㈱臨床試験担当者(CRA)募集

職種：臨床試験に関わる業務

資格：大卒(理系、薬系)以上、24～33歳までの臨床試験モニター、監査部門・QC、データ管理業務経験者など、要英文読解力

勤務地：大阪本社(連絡先に同じ)または東京支社(千代田区内幸町1-2-2)

応募：履歴書・職務経歴書をお送りください。書類選考の上、詳細は追って連絡。秘密厳守

連絡先：〒531 大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカビル7階 26階 ゼネカ薬品㈱人事部採用教育グループF係 担当今西、谷島 Tel(06)453-7344

## 知的所有権の専門家をめざしませんか

法律・技術の両側面から企業をバックアップする職業です。バイオ・素材・エレクトロニクス等のハイテク分野を中心に外国事件を主に扱い、米国企業知的財産権部での駐在制度及び米国法律事務所での研修制度も実施(総勢約130余名)。OBP内の新しいオフィス。フィットネスクラブ設備。職種：特許技術者(理工薬農学系大学院卒)。勤務：土日祝休、夏期休暇、弁理士試験休暇(有給)、社会保険完備、9～17時。応募：履歴書郵送。詳細は面談にて。連絡先：〒540 大阪市中央区城見1-2-27 クリスタルタワー15階 山本秀策特許事務所 Tel(06)949-3910

## 医療産業㈱医薬品臨床開発スタッフ募集

職種：①医薬品の臨床開発スタッフ

②医薬品の薬事申請スタッフ

資格：大卒(薬学、医学、化学系)22～40歳位迄 ※英文読解のできる方歓迎します。

勤務地：文京区湯島(千代田線、丸ノ内線)

待遇：当社給与規定により優遇。

事業内容：医薬品・医療機器の薬事申請・治験の総合コンサルティング。

応募：電話連絡の上、履歴書・職務経歴書郵送。連絡先：〒113 文京区湯島4-2-1 杏林ビル 医療産業㈱ 担当 内田 Tel(03)3818-8575